

事業報告書

団体名：一般社団法人育ちとつながりの家ちとせ

1. メニュー名	(1)スタート事業 該当するメニューを○で囲んでください ○(2)ステップアップ事業 (3)市民連携事業
2. 事業名	困っている人この指とまれ♪
3. 実施場所	亀岡市千歳町国分下ノ川 51
4. 実施期間	平成 31 年 4 月 1 日 ～ 令和 2 年 2 月 2 日
5. 目的と課題	支援金申請書に書いた、申請事業の目的と設定した地域の課題を改めて記入してください。
<p>近年、新興住宅の増加や核家族世帯の増加、地域の高齢化など様々な要因から、地域コミュニティの関わり希薄化が進む中、子育ての孤立化が問題となっています。</p> <p>特に、母親自身が一般的な子育て支援施設等に通いにくさを感じていたり、不登校や引きこもり、発達障がい、グレーゾーンの子どもなど、育てにくさを抱える子どもの保護者は特に、社会から孤立した子育てになりがちです。</p> <p>不登校は全国で12万を超え、毎年増加傾向にあり、亀岡市においても不登校やひきこもりは年々増加しています。</p> <p>子育てのしんどさからうつになったり、親子が共依存の関係に陥りお互いの自立を阻んでしまう例もあります。またトラブルを抱えていても、行政等に相談できず、適切な支援を受けることができていない家庭もあります。</p> <p>同じようなしんどさを抱える親同士がつながり合い、本音を打ち明けられる場、それぞれの親子が抱える問題を解決、または、行政やNPOの支援につなぐなど、適切な対応ができる場が必要とされています。</p>	
6. 実施内容	実施した内容を具体的に記入してください。(実施スケジュール、会場、内容、講師名、参加者数、参加者の声、その他情報など)
<p>① 困っている人この指と～まれ♪</p> <p>～困り感のある子どもの進学と就労ってどうしたらいいの?～</p> <p>お話し会&交流会開催</p> <p>日時:令和元年7月20日(土) 13～16時</p> <p>会場:育ちとつながりの家ちとせ(千歳町国分下ノ川 51)</p> <p>講師:朝倉美保氏、吉田展子氏、石田千穂</p> <p>ファシリテーター:高見雅子</p> <p>内容:不登校や困り感を通して、自宅での工夫、学校との対話等をどのように進めてきたか、発達障害やグレーゾーンの子どもを抱える保護者や当事者の方にインタビューを行い、小学校時代から進学、就労へ、どのように見通しを持ってサポートしていくのか、当法人の教育・療育アドバイザーである高見雅子がファシリテーターとして、困り感の分析、対応等を</p>	

解説。

参加者数:20名

事業までの準備・工夫:ゲストスピーカーからの聞き取り、トーク内容の打ち合わせを丁寧に行い、参加者がただ困りに共感して終わるのではなく、生活の中で困りをどのように捉え、どのような支援ができるのか、どのような姿を目指して支援を行えばよいのか、進学・就労の局面でどのようなことを想定し、対応できるのか、就労に向けて獲得しておくことが望まれる姿、二次障害について等、子どもの困った行動を子ども自身の困りと理解し、療育の視点で子育てを捉えなおすことができる内容にした。

参加者層:子育て中の保護者、中学生や大人の当事者

事業の雰囲気:深刻な内容ではあるが、当法人らしい明るく笑いのあふれるお話会になった。参加者の方々にもスッキリとした顔で帰っていただけた。当事者の方や、何となく自分に苦手なことが多いと感じていた大人の方も、特性によるものだったのだと納得する姿が見られた。

② 不登校・行きしぶり たこ焼きパーティー

日時:令和元年10月6日(日) 10時半～15時

会場:育ちとつながりの家ちとせ(千歳町国分下ノ川51)

講師:高見雅子・石田千穂

内容:参加者全員でたこ焼きを作り、食べながら、子どもの困り感(不登校、行き渋り、発達障害、グレーゾーン、癇癪、引きこもり)をどのように支援していけるか解説。

実際に調理や遊びの姿を見て、そこから読み取れるそれぞれのお子さんの困りを親御さん伝え、必要な支援につなげた。大人の当事者についても、活動の様子から困りを紐解き、支援の提案を行った。

参加人数:33名

参加者層:子育て中の保護者、中学生や大人の当事者 前回のお話会に参加された方や、つながりのある方にも参加いただけた。

事業の雰囲気:親子で参加される方が多かったので、大人も子どもも入り混じって、自分の親だけでなく、色んな大人と交流したり、当事者の困りや工夫を知ったりと、楽しく有意義な交流の場になった。

③ 遊びから学ぼう!～感覚・運動の視点から～

日時:令和2年2月2日(日)

会場:育ちとつながりの家ちとせ(千歳町国分下ノ川51)

講師:作業療法士 森川純子氏

内容:作業療法士に子ども達の遊ぶ姿を見てもらい、それぞれの発達課題や必要な取り組み等のフィードバックをうけた。自分の子どもだけでなく、他児のフィードバックも一緒に共有することで、発達や困りの捉え方を深め、ベースアップにつながる遊びや工夫を参加者全体で考えながら進めることができた。

参加人数:43名

参加者層:幼児から中学生の親子、療育について学びたい大人(作業療法士、保育士、子育て支援員、保健師等の専門職の方も参加)

事業の準備・工夫:短時間で子ども達の発達課題についての的確に知ることができる遊びをプログラムし、それぞれの子どもについてより理解を深められるよう、事前に親御さんにお子さんの成育歴や困りについてアンケートを行なう等、事前情報を丁寧に伝えられるよう工夫した。子ども達に対しても、当日不安なく参加できるよう、事前に同じ遊びを楽しんでおく等の準備が必要であった。

事業の雰囲気:子供たちがリラックスして楽しく活動に参加できた。親御さんも積極的に遊びに参加する等、一体となって楽しみ、学ぶことができた。

7. 成果と課題

事業の実施により、課題解決がどのように図られたのか、申請時の事業計画書と比較させるかたちで、事業の効果や成果と課題を数値、具体例などを用いて具体的に記入してください。

今回計3回の事業を行ったが、参加者数が1回目20名、2回目33名、3回目43名と増加し、回を追うごとに関心の高まりを感じた。3回目の作業療法士を招いての事業は、FBやLINEでの広報を行ったが即日予約が埋まってしまい、参加していただけない親子が出るほどの関心の高さであった。

亀岡市においても課題となっている不登校やひきこもりの問題は、知的障害のない発達障害や、グレーゾーンの困りを抱えていることに保護者や学校が気づかずに、適切な支援を受けることができずに育ってしまったことが原因になっていることが少なくありません。

発達上の特性があっても福祉の支援の対象にはならない、スクールカウンセリングや療育は受けているが実際の生活上でどう関わったらいいか教えてもらえない等、保護者がどうしたらいいかわからず困っている間に、暴力、暴言、引きこもりが深刻化していったという声も多く聞かれました。そのようなお子さんでも、特性を正しく理解し、適切な支援を行うことで、1~2か月で問題行動を消去し、楽しく生活ができるように変化しています。

今回のような事業を開催することで、子ども達の抱える困りを正しく理解し、適切な支援につなげることは勿論、保護者や周囲の大人が実際の生活の中で具体的で適切な支援を行えるよう伝えていきたい。

参加者へのアンケートより抜粋

- ・とりあえず学校に行っているからいいかと思っていたけれど、暴力や暴言、不登校が現れるまでに、きっと色々なサインを出していたのだと振り返って思いました。
- ・子どものことで来たけれど、自分にも当てはまっているなと納得した。
- ・特に困り感のある人が就労する時のアドバイスが役に立ちそうです。自己分析をしっかりと上で企業側に自分にできること、できないことをしっかり伝えたい。

- ・母子ともに安心してほっこりすごすことができました。
- ・もっと早くここを知っていたら我が家の進み方も違ったんだろうと思う。
- ・心配だったところが、どんな遊びでアプローチしていくか教えていただけて、やることが明確になってとてもありがたいです。
- ・色々苦手やできないことがある子ですが、身体を使う経験が何にでもつながっていることに気づけてよかった。
- ・ちとせに通うようになって、家から一步も出られないような不安は和らぎましたが、身体へのアプローチで、もっと本質的な安心を得る方法があるということがわかってよかった。
- ・身体の動きと情緒の部分がこれだけ連動しているのかと驚く部分と納得できた部分と両方ですごく勉強になりました。
- ・家ですぐに取り入れられる遊びをたくさん経験できてよかったです。トランポリンなども家にありますが、意識的に遊んでいなかったのもとても勉強になりました。
- ・自分の子だけでなく、他のお子さんの話を聞くことで、遊びのアイデアや、目的を学ぶことができて、とてもよかったです。

団体内からの声

- ・ちとせでの活動の意図や根拠を、専門的な眼で後押ししてもらえてよかった。
- ・子ども達の課題への理解やアプローチがより深まった。

8. 今後の展開	事業の実施成果と課題を受けて、今後の事業展開をどのようにされるのか、申請時の事業計画書と対比させるかたちで、記入してください。
-----------------	---

参加者からのリクエストがあり、来年度は日常生活で起こる様々な困りへの具体的な支援について学ぶ勉強会を毎月開催したいと考えています。

親御さんはもちろん、子育て支援や教育、療育に関わる方々にも、子ども達の抱える困りをできるだけ年齢の小さい内に気づいてもらい、適切な支援を行うことで、不登校やひきこもりに発展することを防ぎ、社会的課題の解決につなげたいと考えています。

9. 協働の効果	今年度の事業実施にあたって、他団体等と協働(協力)された事例がある場合は、その効果や今後の関わり方について、記入してください。 ※市民連携事業に関わらず、他団体との関わりがあった場合は記入してください。
-----------------	--

※チラシや参加者への配布資料、事業実施写真など実施状況が分かる資料がある場合は添付してください。

※記載内容が本様式に入りきらない場合は、適宜追加してください。



困っている人 この指と～まれ♪♪♪

～ 困り感のある子どもの進学と就労ってどうしたらいいの? ～

困り感ってなあに?

当事者が困っていること。発達障害・グレーゾーン・不登校・行きしぶり
不安感・敏感さ・コミュニケーションの苦手感・自己肯定感の低下など。

不登校や困り感を通して、自宅での工夫、学校との対話をどのように進めてきたか、保護者や当事者の方にインタビュー形式で伺っていきます。
小学校時代から進学、就労へ、どのように見通しをもってサポートしていくのか、当団体の教育・療育アドバイザーたかまみーが
ファシリテーターとして、困り感の分析、対応等をお話させていただきます。

- 日時: 7月20日(土) 13時~15時 ゲストスピーカーによるトーク 15~16時 交流会
- 場所: 育ちとつながりの家ちとせ (亀岡市千歳町国分下ノ川51、亀岡駅からバスで国分バス停前 約5分)
- 対象: 困り感のある子ども(当事者:小学生高学年~)、保護者、教育・子育て支援関係者など どなたでも
- 参加費: お一人 1,000円
- お申込: メール chitose.ssw@gmail.com
電話 080-1417-6361 (なかしま)



スピーカーメンバー



朝倉美保

大学進学、就職を経て、34歳のときADHD、
自閉スペクトラム症(アスペルガー症候群傾向強い、
広汎性発達障がい)と診断される。
現在、株式会社みのりの森 代表
発達障害専門雑誌季刊誌「さらり。」の発刊
カウンセリング、講演会、セミナーなど
多才に活躍している。
<https://www.minorinomori.co.jp/>

ファシリテーター



高見雅子
たかまみー

1児の母。当団体の教育アドバイザー。
長男が重度知的障害・自閉症スペクトラム障害と診断後、
応用行動分析学などを学び、日々の療育セラピーや生活に
密着した学びを模索し実践。学校や福祉関係者を巻き込み、
我が子の良き支援者となってもらうことも得意。
困り感を持ったお子さんへの学びの工夫、問題解決には
定評がある。



吉田展子

5児の母。ものづくり、修理が得意。
現在15歳の長男、小6後半~中3を不登校、
通級教室、適応指導教室を経て公立高校へ進学。
いつも親身に一番のサポーターとして
我が子たちに寄り添っている。



石田千穂

2児の母。森のようちえん「そとっこ」を
立ち上げ、その後、フリースクールを立ち上げ、
現在、当団体の代表。「子育て心理カウンセラー」
二人の娘が不登校、フリースクールを経て、
現在それぞれ、公立中学校、通信制高校に通う。

一般社団法人 育ちとつながりの家ちとせ

私たちは『学ぶ』ことの意味を伝え、
一人ひとりが学ぶ力・生活する力・社会で生きる力をつけることを促し、
人とつながりながら自らの足で立ち行動できる人を育てます。

場所 亀岡市千歳町国分下ノ川51
電話 080-1417-6361 (なかしま)
HP <https://chitosesw.wixsite.com/kameoka>
メール chitose.ssw@gmail.com



主催: 育ちとつながりの家ちとせ
亀岡支え合いまちづくり協働支援金助成事業

1/20 国2113人への指導と研修
お茶会の様子。



一般社団法人 育ちとつながりの家 ちとせ

お子さんのことじっくり考えてみませんか？

不登校・いきしぶり たこ焼きパーティーを開催

By admin 2019年10月8日 上 未分類内 にコメントを残す

2019年10月6日（日）

たこ焼きパーティーを開催しました！普段のスクール生、ちょっと覗いてみたいなという親子、発達凸凹だと自覚されている大人たち、支援者さん、いろいろな背景をお持ちの方々が集まり、みんなでたこ焼きの準備をした後、たこ焼きをつついておしゃべり。こんなことに困ってるんだよね～うちもなんです～

あ、むかし私もそうだったんです～

支援でどんな風にするんですか！？そんな話で大人たちが盛り上がる間、子どもたちは、

竹で作った弓矢で遊んだり、

実際に小刀で作ってみたい。

毛糸の指編みに挑戦した子もいました。

それぞれの楽しみ方を満喫しました。次の休日イベントは、

11/10（日）芋掘り&BBQを開催します。

いろいろな悩みも持ち寄りつつ、楽しみましょう！こちらの事業は亀岡市さ

さえあいまちづくり協働支援金事業の交付を受けて実施致しました。

協力: (株) 基地計画 まけきらいぜミ

掲載: 亀岡市広報 きらり

検索...

最近の投稿

そこに、やりたい気持ちがないとね

バレンタイン♥

肉まんづくり

揉め事を解決するとき

「遊びから学ぼう」～感覚・運動の視点から～

最近のコメント

Hello world! にWordPress コメントの投稿者より

アーカイブ

2020年2月

2020年1月

2019年12月

2019年11月

2019年10月

2019年9月

2019年8月

2019年7月

2019年6月

カテゴリー

イベント

勉強会

日々の活動

未分類

野外活動

メタ情報

[ログイン](#)

[投稿フィード](#)

[コメントフィード](#)

[WordPress.org](#)





一般社団法人 育ちとつながりの家 ちとせ

お子さんのことじっくり考えてみませんか？

「遊びから学ぼう」～感覚・運動の視点から～

By admin 2020年2月4日 上 未分類内 にコメントを残す

2020年2月2日

「遊びから学ぼう」～感覚・運動の視点から～
作業療法士 森川純子さん
を講師にお迎えして開催しました。

即日で定員オーバーという期待度大のこの企画。
スタッフも参加者さん（大人）達もワクワク。

でしたが、見通しの持てない子達にとっては不安なイベント。
いつもイベントで当日コケちゃう子達のためにも、事前にリハーサルもしましたよ。
→結果、当日全員参加できました！！

午前中は、大人も子どもも大張り切りの運動会のような催しになりました。
でも実は、作業療法士さんにチェックしていただけるような遊びを組んでいたのです。
楽しく参加できて、
身体の発達まで診ていただけるなんて(*^^)v

そして午後、子どもたちは公園や室内で遊んで待ち、
大人たちはそれぞれのお子さん個別に、フィードバックをしていただきました。

作業療法士さんの視点と、普段のちとせの活動が見事に融合していく瞬間でしたね。
長丁場でしたが、お土産てんこ盛りの実り多い時間でした。

皆さんに楽しんでいただき、ご満足いただけたこのイベント、無事終了できホッとしております。ありがとうございました。

検索 ...

最近の投稿

そこに、やりたい気持ちがないとね

バレンタイン♥

肉まんづくり

揉め事を解決するとき

「遊びから学ぼう」～
感覚・運動の視点から～

最近のコメント

Hello world! に
WordPress コメントの
投稿者より

アーカイブ

2020年2月

2020年1月

2019年12月

2019年11月

2019年10月

2019年9月

2019年8月

2019年7月

2019年6月

カテゴリー

イベント

勉強会

日々の活動

未分類